

日本医学会だより

JAMS News

2014年10月 No.52
日本医学会

◇日本医学会シンポジウム

第146回シンポジウムは「がんの非侵襲的診断法の最前線」をテーマに、12月18日(木)13:00~17:00、日本医師会館大講堂において開催する。組織委員は、坂元亨宇、西尾和人、藤井博史の各氏。参加申込みは郵便はがき、FAX、本会HP (<http://jams.med.or.jp/>) にて受付中。参加費無料。詳細はHPに掲載。

◇日本医師会・日本医学会合同シンポジウム

「子宮頸がんワクチンについて考える」をテーマに、12月10日(水)13:00~16:30、日本医師会館大講堂において日本医師会と合同でシンポジウムを開催する(総合司会:小森 貴日本医師会常任理事。座長:高久史磨日本医学会長)。詳細は本会HPに掲載予定。参加費無料。

◇医学賞・医学研究奨励賞の決定

選考委員会を9月3日に開催し、平成26年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の授賞が決定した。

本選考は、日本医師会から日本医学会に委任されており、今年度の推薦数:医学賞19、奨励賞25を審査した。

選考の結果、11月1日の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は3名、奨励賞は14名に授与される。

選考の結果は下記のとおり。

〈日本医師会医学賞〉

- ・ピロリ菌による胃癌発症の分子機構/畠山昌則(東大・微生物学)
- ・癌の分子標的予防法の確立とその応用に向けての研究/酒井敏行(京府医大・分子標的癌予防医学)
- ・自己免疫疾患に対する分子生物学的解析/山本一彦(東大・アレルギー・リウマチ学)

〈日本医師会医学研究奨励賞〉

- ・中枢神経・肝臓クロストークの分子メカニズムの解明/井上 啓(金沢大脳・肝インターフェースメディシン研究センター)
- ・筋萎縮性側索硬化症の新規モデル動物作成による発症病態の解明/河原行郎(阪大・神経遺伝子学)
- ・癌細胞特異的なTGF- β シグナル伝達制御機構の統合的同定解析/鯉沼代造(東大・分子病理学)
- ・癌上皮間葉移行におけるmicroRNA転写機構の解明/水口義昭(日医大・消化器外科学)
- ・下部尿路機能障害における全身および局所血流障害からみた病態解明と臨床応用/松本成史(旭川医大・腎泌尿器外科学)
- ・滲出型加齢黄斑変性の発症、進展における全身的因子の解析/柳 靖雄(東大・眼科学)
- ・超高齢化社会における失明予防のための緑内障ビクデータによるデータマイニング/中澤徹(東北大・眼科学)
- ・遺伝性不整脈の新たな原因遺伝子と機序の解明ならびに個別化療法の確立/渡部 裕(新潟大・循環器内科学)

- ・心筋症の発症・進展における樹状細胞の意義/安齊俊久(国立循環器病研究センター)
- ・思春期特発性側弯症に対する次世代型3次元変形矯正固定術:アナトミカル・ロッドを用いたオーダーメイド外科治療への展開/須藤英毅(北大・脊椎・脊髄先端医学)
- ・内耳再生医療をめざした内耳薬物動態の解明/神崎 晶(慶大・耳鼻咽喉科学)
- ・ヒト人工多機能幹細胞由来心筋細胞 Extracellular matrix (ECM) グラフトを用いた心不全治療の開発/宮城泰雄(日医大・心臓血管外科学)
- ・増殖因子と細胞内シグナル制御による糖尿病網膜症の病的血管の再生治療/鈴間 潔(長崎大・眼科学)
- ・ヒト無精子症の病態解明および臨床医学への応用/宮本敏伸(旭川医大・産婦人科学)

◆日本医学会分科会利益相反会議

「医学研究のグローバル化と COI マネージメント」をシンポジウムテーマとした第5回日本医学会分科会利益相反会議を曾根三郎日本医学会利益相反委員会委員長の総合司会の下、11月28日(金)13:00~16:20, 日本医師会館大講堂にて開催する。参加希望者は、本会ホームページ(<http://jams.med.or.jp/>)にて、申し込まれたい。先着80名。参加費無料。

当日は総会に引き続き、「日本医学会分科会における COI マネージメントのアンケート結果報告」「フォルタレザ改訂ヘルシンキ宣言の基本理念と臨床研究—作業部会の一員として—」「欧米の臨床研究にかかる COI マネージメントの現状と動向」「製薬企業による研究機関への研究支援とその公開の在り方」「臨床研究にかかる企

業の役務提供をどう考えるか」のそれぞれの講演が行われる予定。

◆日本医学雑誌編集者会議

「不正論文と編集者の責務」をシンポジウムテーマとした第7回日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)総会・第7回シンポジウムを北村聖日本医学雑誌編集者組織委員会委員長の総合司会の下、11月5日(水)13:00~16:30, 日本医師会館大講堂にて開催する。参加希望者は、本会ホームページ(<http://jams.med.or.jp/>)にて、申し込まれたい。先着80名。参加費無料。

当日は総会に引き続き、「編集ガイドラインとCOI」、「統一投稿規定から“Recommendations”へ: ICMJE2013年改訂」、「COPEとそのガイドライン」、「研究不正行為の実効性ある対応に向けて」、「ミスコンダクトと学会の対応—日本高血圧学会のケース—」、「不正論文の元凶: ピエドとIF」のそれぞれの講演が行われる予定。

◆移植関係学会合同委員会

第32回移植関係学会合同委員会が9月19日、厚生労働省で開催された。脳死下臓器移植の進展を踏まえ、より効果的な施設認定・取り消しを行う仕組みの検討が協議された。従来、移植施設が患者を日本臓器移植ネットワーク(JOT)に登録する際は臓器別の関係学会による適応検討を受けていたが、今後は一定の基準を満たした施設であれば施設内の適応評価のみでJOTへの登録を可能とすること、関係学会は移植の実施状況について事後的に把握すること等が承認された。今後、厚労省にガイドラインの改正について検討を求めることになった。